

指定管理者の管理運営に対する評価シート

所管課	農林水産部 地域農業振興課
評価対象期間	平成27年4月1日～平成28年3月31日

指定概要

施設概要	名称	大分農業文化公園及び大分県都市農村交流研修館	施設種別 農林業振興
	所在地	杵築市山香町大字日指1番地1	
	設置目的	(大分農業文化公園) 豊かな自然と親しみながら農業・農村の文化等に関し学習する機会を提供することにより、農業・農村及び自然環境に対する県民の理解を深めるとともに、新しい農業・農村づくりに資する。 (大分県都市農村交流研修館) 都市と農村との交流の促進を図るとともに、農村女性の能力の開発及びネットワークの形成に資する。	
指定管理者	名称	(公社)大分県農業農村振興公社	
	代表者名	安部 欣司	
	所在地	大分市舞鶴町1丁目4番15号	
指定管理業務の内容	①施設等の利用、農業・農村に係る情報の提供、都市と農村との交流の促進、研修に関する業務 ②農業文化公園及び都市農村交流研修館の施設等の維持管理及び修繕に関する業務 ③農業文化公園及び都市農村交流研修館の利用受付及び案内に関する業務 ④農業文化公園及び都市農村交流研修館の利用の許可に関する業務 ⑤農業文化公園及び都市農村交流研修館の利用の促進に関する業務 ⑥その他知事が特に必要と認める業務		
料金制度	利用料金 ・ 使用料 ・ 該当なし		
指定期間	平成23年4月1日～平成28年3月31日(5年間)		

評価結果

評価項目及び評価のポイント	
1	施設の設置目的の達成(有効性の向上)に関する取組み
	(1)施設の設置目的の達成
	①計画に則って施設の管理運営(指定管理業務)が適切に行われたか。また、施設を最大限活用して、施設の設置目的に沿った成果を得られているか(目標を達成できたか)。
	②施設の利用者の増加や利便性を高めるための取組みがなされ、その効果があったか。
	③複数の施設を一括して管理する場合、施設間の有機的な連携が図られ、その効果が得られているか。
	④施設の設置目的に応じた効果的な営業・広報活動がなされ、その効果があったか。
	【所見】 〈大分農業文化公園〉 ○平成27年度の入園者数は295,198人と目標指標330,000人に対して達成率は89.45%であるが、前年度より16,528人増加するなど、平成13年の開園以降4番目に多い入園者数を達成していることは評価できる。 ○入園者の増加を図るため、例年開催する季節のイベント(夏休みこどもパーク、秋穫祭など)に加え、公園の設置目的である農業・農村の情報を発信する「食の祭典」や子どもたちの農作業体験など新規イベントも積極的に開催している。イベント終了時はイベントの集客力、実行における問題点などの検証を行い、次回イベントの開催にいかしている。また、イベントの実施においても、農業団体、市町村、地元企業など多くの団体等と連携を強化し実施している点は評価できる。

- 利用者の利便性を図るため、公園の案内看板を整備するとともに、従来より要望の多かった身障者用のトイレ、雨天でも子どもたちが遊べる県産木材を使用した「木のこどもエリア」を物産館内に新設した。
 - 営業・広報は、マスメディア、旅行会社、観光関連施設とともに、平日利用の拡大に向けて、教育施設、福祉施設、公民館などへの情報提供を行っている。また、大手企業へは直接出向き広報活動を行っている。また、主な入園者である子育て世代の利用拡大に向け、ホームページ、SNSを利用した広報の充実を図るとともにフリーペーパーによる情報発信を強化した。
 - 施設間の連携については、キャンプ場利用者、研修館利用者に物産館のサービス券を配布したり、他施設利用者にもそれぞれのイベント・講座情報の告知を行うとともに、イベントと講座を連携して開催するなど強化を行い、相乗効果を高めている。
- 〈大分県都市農村交流研修館〉
- 目標指標については、年間の研修満足度は95%、受講定員充足率は92%といずれも目標値である80%を上回った。
 - 利用者数は27,715人で、前年に比べ79人の減であるが、自主目標である27,310人は達成している。研修館全体の稼働率は50.5%であり、前年と同程度である。
 - 利用者の増加を図るため、前年度利用者に案内パンフレットの配布するとともに、子供向け体験講座はイベント開催日に合わせた。講座制の確保、部屋貸し拡大に向け、主要郵便局(60カ所)、市役所、JA、公民館などにパンフレットを配布した。また、定期的にマスコミ等を訪問し、PRに努めた。

(2) 利用者の満足度

- ①利用者アンケート等の結果、施設利用者の満足が得られていると言えるか。
- ②利用者の意見を把握し、それらを反映させる取組みがなされたか。
- ③利用者からの苦情に対する対応が十分に行われたか。
- ④利用者への情報提供が十分になされたか。
- ⑤その他サービスの質を維持・向上するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。

【所見】

〈大分農業文化公園〉

- 当該年度の施設利用者へのアンケートを実施した結果、総合評価は「大変満足」と「ほぼ満足」の合計(%)は83.3%となっており、「普通」が10.2%、「やや不満」が1.5%、「不満」が1.8%となっている。公園の利用回数についても初めてが29%に対し、2回以上施設を利用した利用者の割合は68.2%以上とリピーター率も高く、アンケート結果は昨年と同様の傾向である。アンケートの集計数は26年度が877件に対し、27年が939件と前年に比べ増加しており、引き続き、増やす方策の検討も必要である。
- 一方、職員は直接利用者から意見や苦情の聞き取りを行っており、寄せられた要望や苦情は早期解決を図るとともに、朝礼や会議などで情報を共有している。また、外部の有識者から定期的に意見を伺う機会をつくるなど、利用者の満足度向上に積極的に努めている点は評価できる。
- 利用者への情報発信としては、ホームページをより見やすく改修するとともに、イベント・講座の案内をSNSなどを通じて頻繁におこなっている。また、マスメディアにも積極的に情報提供を行い、多くが掲載・放送されている。

〈大分県都市農村交流研修館〉

- 受講生へのアンケート調査では、満足度95%、講座の充足率92%とどちらも目標(80%)を大きく上回っている。
- アンケートの意見などを受け、新規講座を設けたり、講座の内容を変えるなど満足度の向上に努めている。

2 効率性の向上等に関する取組み

(1) 経費の低減等

- ①施設の管理運営(指定管理業務)に関し、経費を効率的に低減するための十分な取組みがなされ、その効果があったか。
- ②清掃、警備、設備の保守点検等の業務について再委託が行われた場合、それらが適切な水準で行われ、経費が最小限となるよう工夫がなされたか。
- ③経費の効果的・効率的な執行がなされたか。

【所見】

〈大分農業文化公園〉〈大分県都市農村交流研修館〉

- 施設の管理運営に関し、節電などの徹底により経費(光熱水費)を削減を行っている。
- 園内施設の設備保守等の業務再委託については、県の基準にならい、複数の業者からの入札等を実施しており、経費の縮減が図られている。また、清掃業務に関しては、引き続き直営で実施している。
- 施設の老朽化などから更なる修繕費を要するため、今後は一層の経費削減への取組み、施設の予防保全等に取り組む必要がある。

(2) 収入の増加

- ① 収入を増加するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。

【所見】

〈大分農業文化公園〉

- 27年度の施設利用料・飲食、物品販売売上は合計で84,989,149円であり、26年度の売上額円に比べ9,364,527円増加している。これはイベントの増加に伴う利用者の増と、地元の農業者・団体と連携して新メニューの開発などに取り組んだことによる。また、これまで稼働率の低かったコテージ・キャンプ場も営業及び広報活動の強化により稼働率の向上に結びつけ、収入の増加に結びつけている。

〈大分県都市農村交流研修館〉

- 27年度の利用料収入は923,250円で、26年度に対し、80,460円減少、講座受講料も27年度2,275,100円と26年度比130,600円減少している。利用料収入は、利用団体の減、講座受講料は受講定員を見直したことによる。
- 貸館利用の増加を目的に地域や企業などに営業活動を行ってきたが研修館全体の稼働率も50.5%であり、26年度と同程度の結果になっている。今後は、貸館利用増加のための営業活動の強化と、公園イベントとの連携など新しい取組みが必要である。

3 公の施設にふさわしい適正な管理運営に関する取組み

(1) 施設の管理運営(指定管理業務)の実施状況

- ① 施設の管理運営(指定管理業務)にあたる人員の配置が合理的であったか。
- ② 職員の資質・能力向上を図る取組みがなされたか。
- ③ 地域や関係団体等との連携や協働が図られたか。

【所見】

〈大分農業文化公園〉

- 入園者が増える土日祝日や、イベント開催時・GW・夏休みなどの繁忙期に人員を多く配置するなど、業務量に応じた人員の配置をおこなっている。
- 職員の資質・能力向上をはかるため、研修会等を実施しているほか、先進地視察などをおこなっている。27年度は研修会等を合計10回、先進地視察を3回実施した。
- 地域のこども園の農業体験、別府大学との棚田プロジェクト、農業者・団体と連携したイベントの開催、商品の開発などを行うとともに、地元市と連携した駅伝などのスポーツ大会の開催、企業と連携した展示会の開催など、幅広く連携や協働に取り組んでいる。

〈大分県都市農村交流研修館〉

- 講座では農村女性をはじめ、地元の人材を講師として最大限に依頼するとともに、地元の食材を講座に活用している。また、農業団体、NPO、市町村、県などと連携した研修会や農山漁村女性グループと連携したイベントを開催するなど、目的に沿った適切な運営がおこなわれている。

(2) 平等利用、安全対策、危機管理体制など

①関係法令(地方自治法、労働関係法令、通則条例、設置条例等)が遵守されているか。

②施設の利用者の個人情報を保護するための対策が適切に実施されているか。

③利用者が平等に利用できるよう配慮されていたか。

④施設の管理運営(指定管理業務)に係る収支の内容に不適切な点はないか。

⑤管理物件の修繕や日常の事故防止などの安全対策が適切に実施されていたか。

⑥防犯、防災対策等の危機管理体制が適切であったか。

⑦事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか。

【所見】

〈大分農業文化公園〉〈大分県都市農村交流研修館

- 変形労働時間制に関する協定届を提出するなど、関係法令は遵守されている。
- 個人情報の取り扱いについては、指定管理者が「個人情報保護規程」を策定し、個人情報が記載された書類についてはシュレッダーによる裁断を徹底するなど個人情報の適正な取扱いに努めている。また、入園者向けには「個人情報のお取り扱いについて」と題した情報セキュリティポリシーを4箇所に掲示しており、その遵守に努めることとしている。なお、これまで情報漏洩等の事案は発生していない。また、マイナンバー制度施行に伴う取扱い規程を独自に整備し、適切に運用している。
- 法令及び関連規程等の定めを遵守して平等利用に取り組んでおり、年間を通してトラブル等は認められていない。
- 営業収入の増加とともに、経費の節減にも自主的に取り組んでおり、指定管理業務は事業はもとより、収支を含め適正に実施されていると判断できる。
- 安全管理については、施設管理、防火管理、事故対応、災害対応のマニュアルを整備するとともに、インフルエンザや食中毒、口蹄疫等の特別な事象についてもマニュアルを整備し、災害等の発生に備えている。施設・遊具等についても安全点検マニュアル、点検スケジュールを定めるだけでなく、職員による巡回点検を強化しており、日常の事故防止などに努めている。
- 緊急連絡体制を整備するとともに、衛生安全研修会や消防防災訓練等にも積極的に参加し職員の知識向上を図っている。
- 自転車等の事故に対しては、近くにいる職員がすぐに駆けつけ対応する体制をとっており、事故によるトラブル等はない。また、総合案内所にAED(自動体外式細動器)を設置している。

【総合評価】

【所見】

〈大分農業文化公園〉

- 目標指標である年間入園者数330,000人を下回っているが、入園者は増加傾向にあり、23年以降の指定管理期間の中で最多の入園者数を達成した。入園者獲得のために多くのイベント開催、新商品開発、営業活動を行っていることは評価できる。
- 施設の管理運営についても、法令や規則、マニュアル等に基づいて、適正に行われており、入園者の安全にも配慮している。

〈大分県都市農村交流研修館〉

- 研修満足度・充足率ともに目標指標80%を大きく上回っており、講座についても公園及び研修館の設置目的に合致した内容である。また、講師として地域の人材や農村女性を活用するなど、独自性を追求したものとなっている。
- 農山漁村女性のキャリアアップに向けた研修やイベントの開催に積極的に取り組んでおり、女性の能力開発、経営意欲の向上、連携強化に貢献している。

【今後の対応】

〈大分農業文化公園〉

- 引き続き、施設の安全かつ適正な管理運営、サービスの向上等に努め、これまで以上に「利用したい」と思われる施設の管理運営に取り組むよう要請していく。また、公園の設置目的に合致した事業を今後も継続して実施することはもちろんのこと、これまで以上に創意工夫に富んだイベント等を多くの関係者、地域と連携しつつ実施し、入園者目標の達成を目指してもらいたい。

- 県民に求められる公園づくりに向け、アンケート調査については引き続き、回収数の増加に努めるとともに、直接入園者の意見を聞く場面の設定や民間等の人材を活用した検討会議の開催など、県民の意見を聞く場面の強化を要請す

〈大分県都市農村交流研修館〉

- 引き続き、農業をベースに独自性と質の高さを追求した事業実施を要請する。
- 部屋貸し利用の増加に向けた営業活動を強化するとともに、公園イベントとの連携等を検討し収入増を目指してもらいたい。

【指定管理者評価部会の意見】

- イベントの充実やホームページの改善、アンケートの回収率向上など、昨年度からの充実がめざましく、改善に真摯に取り組んでいる。
- 国東半島宇佐地域世界農業遺産の情報発信拠点として、外国人の誘客を目指せないか。そのためには、館内の表示やホームページ等、外国語対応を進める必要がある。コテージでの宿泊などにもつなげることが期待できる。
- 建物の屋根にはソーラーパネル設置に適した形状・面積があるので、屋根貸し等を検討できないか。
- 夏場の対策として、ミストシャワーやウォーターライダー等の涼しく過ごせる方策を考えられないか。
- 施設入口のインパクトがなく、導線もわかりにくい。
- 自転車利用者と歩行者が接触する危険がある場所の安全対策を進めるべき。